



いかにせまし…

現代文の採点をしたが（今、変換したら「祭典」と出たが、まあそんな感じの採点であったが…笑）、語彙力の面ではかなり不安の残る結果であった。ちなみに、漢字の問題をもう一度掲載しておく、

- 1 シッコクの闇
- 2 アンノンとした日々
- 3 結果にコウデイする
- 4 誠にイカンである
- 5 仏教にキエする
- 6 シコウ品を揃える
- 7 クントウを受ける
- 8 嘘ほどゾクジに入る
- 9 カブンにして知らない
- 10 コウトウムケイ
- 11 直截にぶつる
- 12 一部の好事家
- 13 流謫の地に
- 14 余命幾許もない
- 15 放埒な生活（問題文を一部省略）

この成績がよくなくて、一桁代の点数の人が結構いた（もちろん、満点の人も数名）。前もって出題範囲は示してあるし、さらに重要語に絞った演習プリントも渡したし、何より「入試必須の漢字」「センター試験ほか全ての入試に完全対応」「語彙力→読解に役立つ能率的な整理術」と表紙に書かれた駿台の問題集からの出題である（…て、それほど駿台を持ち上げる必要もないが）。それにしても準備不足ではなからうか。

今回の考査範囲は、教科書が『舞姫』だったが、『舞姫』は決して入試には出題されないと思われる。一方、上の1～15の漢字（語彙）は、入試の場面で出会うかも知れないのである。もう少ししっかり取り組まないと、こういうところで足もとをすくわれかねない。点数が思わしくなった人は十分に反省してほしい。

*

一方、『舞姫』からも語彙問題を出題した。こちらは「基本的」とか「入試重要語」とい

うわけではないが、しっかりと本文を読んでいるかを確認するために出題である。

- ①坎坷 ②悪阻 ③庖厨 ④手 ⑤上襦袢
⑥容 ⑦朔風 ⑧跣躑 ⑨轆轤 ⑩玻璃

このうち、④、⑦、⑨は「意味を二字の漢字で書け」、残りは「この作品における読みを書け」という問題であった。後者はたいした問題ではないし、「⑤うわじゅばん」が読めたからといって、直接入試に役立つことはないだろう（ちなみに⑩は「がらす」が正解だが、「はり」の誤答が多く、中には「コバルト」と書いた珍答案があった。化学の勉強のしすぎであろうか…）。しかし、本文を読解している以上、その本文が読めていないというのでは、基礎がまったくグラグラだということになってしまうのである。今回は、音読を聞かせる形で授業を進めたが、プロの朗読で聞き取りやすい分、こういう基本的な知識が欠落する可能性があることが分かった。この点を改善する工夫が必要なようだ。（例えば、プリントにフリガナをつけさせるといった作業課題を用意するとか…）

同じく、本文の基礎理解ということで、「もしまことなりせばいかにせまし」を現代語に直しなさいという問題も出題したが、「もし本当だったらどんなに狭いことだろう」という珍答がかなりあったとのこと。これは「～せば…まし」の典型的な反実仮想の形でありながら、「まし」が「迷い・ためらい」を表している（入試では「まし」の「迷い・ためらい」はかなり出題されるので要注意!）ところが面白いのだが、まさか「狭い」が出てくるとは驚きである。やれやれ…。